

所見を書くにあたって

2023年8月24日

学習の所見は評価後に

○学習の所見は「主体的な学び」以外は、評価が出ないと書きづらい。

児童のよいところを認めようと書き始めると、評価に表れないことがある。

テストの点によりソフトが評価するので、これを変更してしまうと評価が客観的に正しく行われない。そこで評価が出てから所見を書き始めた方が評価と所見にズレが生じづらい。

○「主体的な学び」はノートや普段の観察などで書くことができるので、所見を書きやすいが、何を基準に○にするのか評価が難しい。書きやすいのはノートの感想やテストの裏の下の記述によって書くと書きやすい。

行動の所見は評価前に

○行動の所見は友達との様子や掃除、給食などの当番活動、係活動などの活動の様子を所見に書き、行動評価のどれに当てはまるかで○をつけていくとよい。その中で関係するところも一緒に○をつけるとよい。後期も考えてあまり○をつけすぎない。

これは No Good

基本的な書き方	これはNo Good
○「…ました。」「…されています。」 「…です。」「…でした。」 敬体で統一する。	○「…だった。…だ。」 (このような語尾は通知表にふさわしくありません。) ○「…でした。…だ。」 (です。ます。…だ。と常体と敬体が混ざった文章もいけません。)
○「…し…のようになりました。」 「…なので…されています。」 根拠と結果を書く。	○「…のようになりました。」 (これではどういう努力をしてそうなったのかわからない。) ○「…をがんばりました。」 (どんなことをどのようにしてがんばったのか書く。頑張ったという言葉でまとめるのではなく、児童の努力していたり、活動している様子を書く。)
○評価に○がついている教科を書く。	○「ドリル学習に努力しました。」 (ドリル学習の何について努力したのか。3観点の中でどこを書いているのかははっきりさせながら書く。)
○書きたい所見の教科や行動の評価項目を示してから書き始める。	○「理由をはっきりさせながら発表することができます。」 (○がついている教科を中心に書きたい教科を示してから活動の様子を書いていく。)

合い言葉は

「所見には根拠を、評価と所見の一致」です。